

トップ記事

令和3年度現場見学会を開催しました。(CPDS 5ユニット認定講座)

記事

新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、休止していました現場見学会を2年ぶりに開催しました。大型バスの定員55名に対し25名の募集とし、感染対策に十分注意して実施しました。

- 1 開催日 令和3年7月21日(水)
- 2 参加者 29名
 - ①会 員 24名
 - ②技士会 市川会長、矢原委員長、山田副委員長、水谷委員、事務局
- 3 会 場
 - ①名古屋市中川区広川ポンプ所築造工事
事業者 名古屋市上下水道局(日本下水道事業団)
施工業者 清水・竹中土木・足立特定建設共同事業体
 - ②知立駅連続立体交差事業に伴う本線土木その3工事
事業者 愛知県(名古屋鉄道株式会社)
施工業者 矢作建設工業株式会社
 - ③国道23号蒲郡バイパス豊沢函渠工事
事業者 国土交通省中部地方整備局名四国道事務所
施工業者 TSUCHIYA 株式会社、株式会社加藤建設
- 4 行 程
広川ポンプ所築造工事現場➡知立駅連続立体交差事業工事現場➡国道23号蒲郡バイパス豊沢函渠工事現場

5 概 要

(1) 広川ポンプ所築造工事現場では、名古屋市上下水道局伊勢路主査、日本下水道事業団東海総合事務所板津主幹、藤井専門役から広川ポンプ所建設の概要及びニューマチックケーソン工法による築造工事の説明があり、清水・竹中土木・足立特定建設共同事業体の増田様の先導で現場見学を行いました。

広川ポンプ所は名古屋駅周辺を含む中川運河上流地域と露橋地域で集められた雨水を中川運河に排出するための施設であり、地上部分19m地下部分6.5m、横5.2m、幅29.5mの構造物です。躯体はニューマチックケーソン工法により、中川運河に隣接した狭隘な建設用地において、あらかじめ地上で下部に作業室を設けた鉄筋コンクリート製の函(ケーソン)を築造し、作業室に地下水圧に見合う圧縮空気を送り込むことで地下水を排除し、常にドライな環境で掘削・沈下を行ってポンプ所土木部分の築造が行われています。

見学時は躯体の築造が完了し、タワークレーンの撤去等の準備が行われていました。



(2) 知立駅付近連続立体交差事業本線土木（その3）工事現場では、矢作建設工業(株)の赤股所長、高木係長から工事概要の説明を受け、現場を見学しました。

知立駅連続立体交差事業は知立駅を中心とした名古屋鉄道名古屋本線及び三河線の約4.9kmを立体交差化するもので、当工事は知立市池端地内の知立駅部の工事となります。工事場所は仮線と公道に挟まれ、作業ヤードがないため仮栈橋を設置し、作業ヤードを確保するとともに、また営業線に近接していることから列車接近装置、防護柵等を整備しています。

見学時は名古屋方面の構造物は上層階（三河線階）の施工が終わり、ホームの構築に着手していました。豊橋方面の構造物は鉄骨組立が完了し、中層階（名本線階）の構築にっていました。





(3) 国道23号蒲郡バイパス豊沢函渠工事現場では、名四国道事務所豊川建設監督官詰所の山本建設専門官、TSUCHIYA(株)の櫛田様、(株)加藤建設の尾関様から工事の概要説明を受け、現場を見学しました。

当現場は蒲郡バイパスのうち、豊沢トンネル区間で二連一層及び一連一層函渠の区域になります。工事の特徴として、カルバート工における品質及び生産性の向上への取り組みにおいて、3次元 FEM 温度応力解析によるひび割れ補強筋の配置やコンクリート打設及び養生時の温度ひび割れ対策、底版及び頂版におけるせん断補強筋の形状変更を内容とする機械式鉄筋定着工法、また組立ての完了した型枠支保工を解体せず、支保工下端部に移動用ジャッキ車輪を取り付け、手動ウインチにより牽引きし所定の位置に移動させる曳家工法の説明を受けました。

見学時はカルバート工の最中でした。



